

地質調査所創立100周年を迎えるにあたって

地質調査所長 陶山 淳治
Junji SUYAMA

地質調査所は 本年 創立100周年を迎えました。明治7年に内務省に木石課が設置されたことが端緒となり 明治11年5月3日には 内務省地理局に地質課が発足しております。 明治14年農商務省の設立に伴い 地質課は同省に移管され 翌明治15年(1882年)2月13日に地質調査所の設置が定められています。

その後 幾多の変遷がありましたが 現在は通商産業省に所属し 昭和54年より工業技術院筑波研究センター内に配置されています。

地質調査所は 創立以来 わが国の地質および地下資源に関する調査研究を進め 国の基本図としての地質図および各種地下資源の潜在量評価のための資源図等を作成し 社会経済の発展に寄与してきました。 とくに 第2次世界大戦後には 全国炭田調査 全国天然ガス調査 5万分の1地質図巾調査 窯業・肥料用鉱物資源調査 鉄鋼副原料調査 未利用鉄資源調査 核原料資源調査 工業用水調査等を通じて 日本経済の復興に貢献してきました。 また 昭和30年代後半に入り 国内資源の開発を促進するため 新たな発想のもとに 構造性ガスに関する調査研究および金属鉱床密集地域に関する調査研究に着手し 地質学的手法に地球物理学的手法および地球化学的手法を加えた総合的調査システムの開発と新探査技術の導入を行いつつ 調査研究が進められました。 その成果は事業団・公団等の特殊法人 さらには民間企業に継承され その後の国内外の資源開発調査の発展に寄与してきました。

近年は 地熱資源・海洋鉱物資源の調査研究・地震等の自然災害の予知 および公害防止等の調査研究など新しい分野の研究に対する要請が強くなり 業務内容も多様化しております。

当所としては 国家社会の要請に応えるため 今後とも 国土およびその周辺海域の地球科学的実態の解明を中心的課題として取り組み 国の基本図としての5万分の1地質図巾等の完成に鋭意努力するとともに エネルギー・鉱物資源の探査・評価 国土の環境保全 自然災害の予知・防止 およびこれらに関する技術の開発等の分野で研究業務の積極的推進を計ってゆく所存であります。

ところで 最近の地球科学の分野の発展には 目ざま



陶山淳治所長

しいものがあります。 とくに 著しく発達した分析技術 計測技術および情報処理技術等に支えられ 新しいデータおよび情報が多量に収集されつつあり このため 国土および地球規模での地球科学的実態が従来にも増した速さで解明されつつあります。 同時に 今後ともますます増大することが予想される多種 多様な大量のデータの蓄積に対し これらを効率的に利用するとともに 得られた情報の総合化を進めるためには データ・ベースの開発・利用が必要になりつつあります。 一方 これらのデータ・ベースを用い 当所の研究業務の目的である資源評価と地質現象の予測を行うためには 多岐にわたるデータに対し所期の目的に合致する処理が可能な独特の会話型のデータ・ベース・システムの研究・開発が必要であり このようなデータ・ベースシステムを利用することにより 地球科学的実態が一段と明らかにされ 高い確度での地質現象の予測と資源評価が可能となると考えます。

地質調査所は 絶え間なく発展する関連分野の科学技術に着目し これを積極的に取り入れつつ 自らの科学技術の水準の向上に努力し 国家・社会よりの期待に応えるよう最善を尽す所存であります。 今後とも一層の御支援・御協力のほどお願い申し上げます。